

令和 3 年 10 月 27 日

1. 全体

- 全 10 回（キックオフ・中間報告・最終報告の計 3 回、各分野で計 7 回）
- 頻度は二週間に一回程度
- ウェブ会議を基本とする（できればどこかのタイミングで、アイスブレイクも兼ねて対面で開催）。

2. 各会合

<第一回（キックオフ）>

■第一回（今後のあるべき将来像やQ Xの位置づけについて）

■日時：10月27日

■議題：

- 今後の進め方等について（事務局から紹介）
- 研究開発や産業の動向について
- 今後のあるべき社会像やQ Xの位置づけについて議論

■議論の狙い：

量子分野の研究・産業の動向について共通認識を醸成。各人から、アイスブレイクも兼ねて自己紹介、問題意識や将来像についてポジショントーク。

<第二回以降>

■第〇回（量子コンピュータの産業・研究開発の在り方について）：

■日時：（プレゼンターとの日程調整次第）

■議題：

- 量子コンピュータの研究開発の現状や今後の見通し等について
- 量子コンピュータ産業の現状や今後の戦略について
- 量子コンピュータの産業・研究開発の在り方について議論

■議論の狙い：

量子コンピュータの各ベンダーの企業戦略やこれに対応した政府支援・研究開発（例えば、世界と勝負のついていない研究テーマや戦略、政府研究の加速の必要性／産業界との連携強化、部品・コンポーネントの高度化・サプライチェーン確保等）等

■第〇回（量子アプリケーションの産業・研究開発の在り方について）：

■日時：（プレゼンターとの日程調整次第）

■議題：

- 量子アプリケーションの研究開発の現状や課題、今後の取組等について
- 量子アプリケーション産業の現状や今後の戦略について
- 量子アプリケーションの産業・研究開発の在り方について議論

■議論の狙い：

各ユーザ企業／アプリケーションベンダー企業戦略やこれに対応した政府支援・研究開発（例えば、

量子コンピュータの国内利用環境の整備、ユーザ／ベンダーの連携によるアプリケーションづくり支援、新たなアプリケーションアイデアの発掘（ハッカソン／アイデアソン／ビジコン）等）等

■第〇回（量子セキュリティ／量子ネットワークについて）：

■日時：（プレゼンターとの日程調整次第）

■議題：

- 量子セキュリティ／量子ネットワークの研究開発／テストベッド整備（政府調達）について
- 量子セキュリティ／量子ネットワークの産業の今後について
- 量子セキュリティ／量子インターネットの産業・研究開発の在り方について議論

■議論の狙い：

各ユーザ企業の戦略やこれに対応した政府支援・研究開発（例えば、QKDネットワークの拡大、産業界／政府関係機関による利用実証の充実、政府調達（アンカーテナンシー））、量子インターネットの研究開発戦略等

■第〇回（中間報告案について）：

■日時：12月中旬

■議題：

- 中間報告案について
- 新産業創造協議会の提案について
- 量子ICTフォーラムの提案について

■第〇回（量子ベンチャー企業の振興の在り方について）：

■日時：（プレゼンターとの日程調整次第）

■議題：

- 量子ベンチャー企業の現状や課題、今後の振興方策について
- 量子ベンチャー企業の振興の在り方について議論

■議論の狙い：

ベンチャー企業支援策について（例えば、ベンチャー企業向けの量子コンピュータ利用環境整備、ビジネスアイデアコンテスト（新たなアプリケーション／センサビジネス）、リスクマネー供給、量子分野に精通した経営人材育成、インキュベーション施設整備支援等）等

■第〇回（国際連携、産学官連携、知財について）

■日時：（プレゼンターとの日程調整次第）

■議題：

- 国際連携について
- 産学官連携について
- 知財について

■議論の狙い：

国際連携（例えば、AMO、基礎理論、材料等を含む、世界トップ研究者と常時接続の世界拠点整備）、産学官連携（例えば、各拠点の産学連携強化（産業界と繋ぐ専門人材の配置・充実、Q-STARとの連携等））、知財（例えば、標準化戦略、各拠点での知財取得支援等）

■第〇回（プレイヤー人材の育成、アウトリーチについて）

■日時：（プレゼンターとの日程調整次第）

※文科省量子科学技術委員会の報告があることから1月以降に設定

■議題：

- 量子人材の育成の現状や課題について
- アウトリーチの現状や課題について
- プレイヤー人材の育成、アウトリーチの今後の在り方について議論

■議論の狙い：

量子ネイティブ／リカレント教育（社会人・若手向けの人材育成プログラム充実）、フラッグシップ人材（起業家／産業人材、研究人材等）の表彰制度、裾野の広い若手研究人材育成（さきがけや地方大学等）、アウトリーチ活動強化（各拠点への広報人材配置、SNS 等での情報発信）、将来的には人材・教育プログラムの認定制度創設も視野等

■第〇回（量子計測・センシング等について）

■日時：（プレゼンターとの日程調整次第）

■議題：

- 量子計測・センシングの研究開発の現状や今後の見通しについて
- 量子計測・センシングの産業の今後について
- 量子計測・センシングの産業・研究開発の在り方について議論

■議論の狙い：

量子計測・センシングの産学連携の強化（産学共同研究開発強化、新たな量子センサビジネスの発掘（ハッカソン／アイデアソン／ビジコン等）、量子センサのポテンシャルユーザ・開発企業への情報提供・売り込み）、世界を見据えた量子材料・デバイスの戦略的な開発等

■第〇回（最終報告案について）：

■日時：3月下旬

■議題：

- 最終報告案について